

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●天皇賞(春)はジャスティンパレスがG I 初制覇

4月30日(日)に行われた天皇賞(春)(G I)ではジャスティンパレス(牡4歳/栗東・杉山晴紀厩舎)が優勝、G I 初制覇を果たしました。このレースには同馬の兄アイアンパローズも出走しており、同時出走したきょうだい馬によるG I 勝利は2022年宝塚記念(タイトルホルダーが勝利/姉メロディーレーンも出走)以来、史上4回目のこと。杉山調教師は41歳4か月7日での天皇賞(春)制覇で、これはグレード制が導入された1984年以降ではレース史上最年少優勝記録となります。

●横山典弘騎手がJRA通算2万1000回騎乗を達成

4月30日(日)の1回京都4日・第12レースとして行われた東大路Sでリワードマレンゴに騎乗した横山典弘騎手(美浦・フリー)は、この騎乗で史上5人目、現役では4人目となるJRA通算2万1000回騎乗を達成しました。

●鈴木伸尋調教師がJRA通算400勝を達成

4月29日(祝・土)の2回東京3日・第3レースではパイアイヤーが1着となり、同馬を管理する鈴木伸尋調教師(美浦)は、現役38人目となるJRA通算400勝(延べ5700頭目)を達成しました。

●斉藤崇史調教師がJRA通算200勝を達成

4月29日(祝・土)の1回京都3日・第5レースではアースクロニクルが1着となり、同馬を管理する斉藤崇史調教師(栗東)は、現役105人目となるJRA通算200勝(延べ1796頭目)を達成しました。

●ダノンファラオ、ディバインフォースの競走馬登録抹消

2020年ジャパングラードダービー(大井・Jpn I)などの勝ち馬ダノンファラオ(牡6歳/栗東・矢作芳人厩舎/JRA通算11戦2勝・地方12戦3勝)と、2021年スポーツニッポン賞ステイヤーズS(G II)の勝ち馬ディバインフォース(牡7歳/栗東・寺島良厩舎/JRA通算28戦4勝)は、4月2日(日)までに競走馬登録を抹消されました。ダノンファラオは地方・大井競馬に移籍。ディバインフォースは乗馬となる予定です。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●かしわ記念(船橋)でメイショウハリオが2度目のJpn I 制覇

かしわ記念(Jpn I、5月4日、船橋、1600m)は、中団から追い上げた2番人気のメイショウハリオ(浜中俊騎手、牡6歳、父パイロ)が残り50mで差し切り、帝王賞に次ぐJpn I 制覇。タガノビューティーがクビ差で2着、3番人気のハヤブサナンデクンが3着、1番人気に推されたシャルルは4着、ソリストサンダーは5着、逃がたヴァレーデラルナは8着に終わっています。

●ミトノオーが兵庫チャンピオンシップ(園田)を逃げ切り圧勝

兵庫チャンピオンシップ(Jpn II、3歳、5月3日、園田、1870m)は、先手を取ったミトノオー(武豊騎手、牡、父ロゴタイプ)が後続を6馬身引き離して圧勝、単勝1.4倍の支持に応えました。キリンジが2着に入り、2番人気のメイショウオーロラは更に10馬身遅れの3着、3番人気のサンライズジークは4着、マルカラピッドは7着に敗れています。

●かきつばた記念(名古屋)は重賞初挑戦のウィルソンテソーロ

かきつばた記念(Jpn III、5月2日、名古屋、1500m)は、4~5番手から差を詰めた2番人気のウィルソンテソーロ(川田将雅騎手、牡4歳、父キタサンブラック)が、単勝1.7倍で断然人気のドライスタウトとの直線の競り合いをハナ差で制し、レコードタイムで重賞初制覇。3番人気のヘリオスが3着、逃げたデュアリストは5着、トップハンデ61kgのテイエムサウスタンは9着でした。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●香港チャンピオンズデー〜地元香港勢が3つのG 1を全て制す

1日で3つのG 1が組まれる香港チャンピオンズデーが現地4月30日にシャティン競馬場で行われました。チェアマンズプリントブライズ(3歳上、芝1200m)は、ラッキースワイネス(騾4歳、父スワイネス、K.マン厩舎)がZ.パートン騎手を背に2番手追走から直線で突き抜けて3馬身1/4差の完勝。ほかに2月のG 1 センテナリースプリントC(芝1200m)、3月のクイーンズシルバージュビリーC(芝1400m)からなる香港スピードシリーズの完全制覇を成し遂げました。日本から参戦のアグリは中団から伸び切れず5着に終わっています。

この日のメインとなるG 1 クイーンエリザベス二世C(3歳上、芝2000m)はロマンチックウォリアー(騾5歳、父アクラメーション、C.シャム厩舎)が3番手から楽に抜け出してこのレース連覇を達成。3頭が出走した日本調教馬は最後方から追い込んだプログノーシスの2着が最高で、ダノンザキッドは5着、ジェラルディーナは6着でした。なお、もうひとつのG 1 で、日本馬の出走がなかったチャンピオンズマイル(3歳上、芝1600m)は、C.ホー騎手が騎乗したゴールデンシックスティ(騾7歳、父メダリアドロ、K.ルイ厩舎)がレース史上初の3連覇を達成。香港調教馬としては史上最多となるG 1・9勝目を挙げました。